

津市文化財指定記念特別展

# 津八幡宮の

# 名宝

— 三十六歌仙絵大公開 —



2022

9/10 SAT -  
11/13 SUN

三十六歌仙扁額 江戸時代 津八幡宮蔵(津市指定有形文化財)

開館時間/10時~17時(入館は16時30分まで)

休館日/毎週月曜日[但し祝日の場合は翌日]

[9月19日・10月10日(月・祝)は開館、9月20日・10月11日(火)は休館]

入館料/一般500円[400円]・学生300円(中学生以下無料)

※[ ]内は20名様以上の団体料金

公益財団法人 石水博物館

〒514-0821 三重県津市垂水3032番地18

【TEL】059-227-5677 【FAX】059-213-5789

<https://www.sekisui-museum.or.jp/>



〈主催〉公益財団法人 石水博物館 〈特別協力〉津八幡宮 八幡町自治会 〈後援〉津市 津市教育委員会

# 津八幡宮の名宝

— 三十六歌仙絵大公開 —

津八幡宮は建武年間(1334~8)、現在、石水博物館の所在する千歳山<sup>かんじょう</sup>へ勧請されたと伝えられています。寛永9年(1632)、津藩の二代藩主・藤堂高次は八幡宮を現在地(津市八幡町)に遷し、壮麗な社殿を建立しました。

津八幡宮では長く三十六歌仙扁額を大切に伝えてきましたが、近年の調査・研究で江戸時代初期に藤堂家と所縁の深い撰家筆頭の近衛家が中心となって作成された作品であることが明らかとなり、本年7月、津市指定有形文化財となりました。

本展では、これら歌仙絵扁額を一挙公開するとともに、津八幡宮の社宝をはじめ、その関連作品を展示します。



1 表面に金箔発見！当初は黄金に輝く！



2 江戸時代後期を代表する陶製の狛犬の名品



3 津藩主藤堂家の権威を伝える大きな棟札



4 二代津藩主・藤堂高次、八幡町の租税免除を定める



5 津八幡宮祭礼(津まつりのルーツ)の賑わいを伝える絵巻物

## 記念シンポジウム

「津のたからもの 三十六歌仙扁額の魅力にせまる」

講師：青山泰樹氏(津市文化財保護審議会委員)  
羽田聡氏(京都国立博物館 列品管理室長兼美術室長)  
山口泰弘氏(三重大学特任教授)

日時：10月30日(日) 14:00~16:40(13:30開場)

会場：三重県立美術館 講堂(津市大谷町11)

申込方法：石水博物館まで電話にて(059-227-5677)

定員：申込先着70名様(聴講無料)

- | 番号 | 品名       | 作者        | 制作年         | 寸法             | 所在地              |
|----|----------|-----------|-------------|----------------|------------------|
| 1. | 華表額      | 伝 近衛信尋筆   | 寛永9年(1632)頃 | 110.0×78.5     | 津八幡宮蔵            |
| 2. | 灰釉狛犬     | 阿・呷 加藤忠吉作 | 文久2年(1862)  | 84.0×34.5×59.0 | 津八幡宮蔵            |
| 3. | 本殿棟札     |           | 寛永9年(1632)  | 152.3×29.7     | 津八幡宮蔵            |
| 4. | 藤堂高次判物   |           | 寛永9年(1632)  | 31.6×46.5      | 八幡町蔵(津市指定有形文化財)  |
| 5. | 津八幡宮祭礼絵巻 | 江戸時代      |             | 28.0×2534.9    | 石水博物館蔵 ※法量の単位はcm |

## 展覧会図録、刊行！

新たに津市指定文化財となった三十六歌仙扁額(津八幡宮蔵)をはじめ、津八幡宮や八幡町に伝来した貴重な資料を解説とともにオールカラーで紹介。津の歴史を知る上で必携の一冊！(A5判、56頁、税込500円)

ギャラリートーク 担当学芸員が展覧会をご案内します。

日時：9月23日(金・祝)、9月30日(金)、10月7日(金)、10月9日(日)、10月23日(日)、11月6日(日)、11月12日(土) 各日14時より30分程度

※申し込みは不要。当日14時までに石水博物館受付前へお越しください。

※参加費は無料ですが、当日の入館料が必要です。

同時開催 (第2展示室)

所蔵品展《川喜田半泥子の作品と季節の館蔵品》

※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、チラシの掲載内容に変更が生じる場合があります。当館ホームページまたは電話にて、最新の情報をご確認ください。また、ご来館の際には、感染症予防対策にご協力ください。

次回展覧会

没後50年記念企画展

川喜田壮太郎一人と作品一

会期：令和4年11月19日(土)~  
令和5年1月22日(日)

展示替休館

11月14日(月)~18日(金)

## 交通アクセス

- JR・近鉄津駅東口より三重交通バス(久居駅方面行)にて約15分、「青谷口」下車徒歩約8分
- 近鉄久居駅西口より三重交通バス(津駅方面行)にて約10分、「青谷口」下車徒歩約8分
- JR阿漕駅より徒歩約12分
- お車をご利用の方

[津市街から] 国道23号線「大倉」交差点を東道776号線(久居方面)へ。JRの踏切を越え、約200m先岩田池手前の細い道(角に看板あり)を左折、約300m先左側。(駐車場15台)

## 公益財団法人 石水博物館

〒514-0821 三重県津市垂水3032番地18

【TEL】059-227-5677 【FAX】059-213-5789

<https://www.sekisui-museum.or.jp/>



## 第1・第2展示室

### 津市文化財指定記念特別展

# 津八幡宮の名宝—三十六歌仙絵大公開—

令和4年9月10日～11月13日

## 出品目録

### 第1展示室

No.	作品名	作者・筆者など	年代	形質・員数など	所蔵
1	灰釉狛犬 阿・吽	加藤忠吉作	文久2年（1862）	陶製、2体	津八幡宮蔵
2	華表額	伝 近衛信尋筆	寛永9～12年（1632～35）	銅製、1面	津八幡宮蔵
3	灰釉狛犬 台座	加藤忠吉作	文久2年（1862）	陶製、1台	津八幡宮蔵
4○	三十六歌仙扁額	詞 近衛信尋ほか筆	寛永9～12年（1632～35）	木製、34面	津八幡宮蔵
4-1	柿本人麻呂	詞 近衛信尋筆	寛永9～12年（1632～35）	木製、1面	津八幡宮蔵
4-2	凡河内躬恒	詞 近衛信尋筆	寛永9～12年（1632～35）	木製、1面	津八幡宮蔵
4-3	大伴家持	詞 近衛尚嗣筆	寛永9～12年（1632～35）	木製、1面	津八幡宮蔵
4-4	在原業平	詞 近衛尚嗣筆	寛永9～12年（1632～35）	木製、1面	津八幡宮蔵
4-5	素性法師	詞 近衛尚嗣筆	寛永9～12年（1632～35）	木製、1面	津八幡宮蔵
4-6	猿丸大夫	詞 入道良純親王筆	寛永9～12年（1632～35）	木製、1面	津八幡宮蔵
4-7	藤原兼輔	詞 入道良純親王筆	寛永9～12年（1632～35）	木製、1面	津八幡宮蔵
4-8	藤原敦忠	詞 入道良純親王筆	寛永9～12年（1632～35）	木製、1面	津八幡宮蔵
4-9	源公忠	詞 入道良純親王筆	寛永9～12年（1632～35）	木製、1面	津八幡宮蔵
4-10	斎宮女御	詞 入道良純親王筆	寛永9～12年（1632～35）	木製、1面	津八幡宮蔵
4-11	藤原敏行	詞 烏丸光広筆	寛永9～12年（1632～35）	木製、1面	津八幡宮蔵
4-12	源宗子	詞 烏丸光広筆	寛永9～12年（1632～35）	木製、1面	津八幡宮蔵
4-13	藤原興風	詞 烏丸光広筆	寛永9～12年（1632～35）	木製、1面	津八幡宮蔵
4-14	坂上是則	詞 烏丸光広筆	寛永9～12年（1632～35）	木製、1面	津八幡宮蔵
5◎	烏丸光広書状	自筆、三宅亡羊宛	江戸時代前期	紙本墨書、1幅	石水博物館蔵
6	芝居番付（八幡町常芝居）	—	天保3年（1832）	紙本木版、1枚	石水博物館蔵
7	芝居番付（八はた御旅所）	—	文政12年（1829）	紙本木版、1枚	石水博物館蔵
8○	御祭礼之時分芝居之定	—	元禄元年（1688）	紙本墨書、1通	八幡町蔵
9○	藤堂高次判物	八幡新町中宛	寛永9年（1632）	紙本墨書、1通	八幡町蔵
10○	藤堂高猷判物	（八幡町宛）	文政10年（1828）	紙本墨書、1通	八幡町蔵
11	津八幡宮祭礼絵巻	—	江戸時代後期	紙本着色、1巻	石水博物館蔵
12	唐人面	—	江戸時代後期	紙製、3面	石水博物館蔵

No.	作品名	作者・筆者など	年代	形質・員数など	所蔵
13◎	近衛信伊書状（名家書状継合のうち）	自筆	江戸時代前期	紙本墨書、1通	石水博物館蔵
14	県社八幡神社絵葉書	八幡神社社務所	明治・大正時代	印刷（紙）	個人蔵
15	津祭礼絵葉書	日本名所絵葉書出版所	明治・大正時代	印刷（紙）	津八幡宮蔵
16	津城下町絵図	—	江戸時代中期	紙本着色、1鋪	個人蔵
17	津八幡宮遷宮棟札	—	寛永9年（1632）	木製、1枚	津八幡宮蔵
18	津八幡宮遷宮棟札	—	元禄3年（1690）	木製、1枚	津八幡宮蔵
19	津八幡宮遷宮棟札	—	文久2年（1862）	木製、1枚	津八幡宮蔵
20	八幡町文書 外箱	—	江戸時代後期	木製、1合	八幡町蔵
21○	藤堂高次書状	自筆、井上豊一ほか宛	寛永15年（1638）頃	紙本墨書、1通	八幡町蔵
22○	八幡町屋敷御免許之絵図	八幡町年寄 忠右衛門ほか	貞享2年（1685）	紙本墨書、1巻	八幡町蔵
23○	御開基御由緒記録	八幡町名主高鶴平八ほか	天保4年（1833）	紙本墨書、1冊	八幡町蔵
24	県社八幡神社御由緒調査書（『神社明細帳』のうち）	石上清長編	大正3年（1914）	紙本墨書、1冊	津八幡宮蔵
25○	八幡町煙草専売権訴状	八幡町中	元禄元年（1688）	紙本墨書、1通	八幡町蔵
26○	津藩奉行連署覚	玉置甚三郎ほか	元禄元年（1688）	紙本墨書、1通	八幡町蔵
27	『俳諧歳時記』	曲亭馬琴著	享和3年（1803）刊	紙本木版、2冊のうち	石水博物館蔵
28	『勢陽雑記』巻第四	山中為綱著 村田元次写	享保10年（1725）写	紙本墨書、7巻7冊のうち	石水博物館蔵
29	御開基御由緒記録ならびに八幡町文書写	—	江戸時代後期	紙本墨書・1冊	個人蔵

## 第2展示室

No.	作品名	作者・筆者など	年代	形質・員数など	所蔵
4-15	小大君	詞 久我通前筆	寛永9～12年（1632～35）	木製、1面	津八幡宮蔵
4-16	平兼盛	詞 久我通前筆	寛永9～12年（1632～35）	木製、1面	津八幡宮蔵
4-17	紀貫之	詞 高松宮好仁親王筆	寛永9～12年（1632～35）	木製、1面	津八幡宮蔵
4-18	伊勢	詞 高松宮好仁親王筆	寛永9～12年（1632～35）	木製、1面	津八幡宮蔵
4-19	山部赤人	詞 入道尊覚親王筆	寛永9～12年（1632～35）	木製、1面	津八幡宮蔵
4-20	僧正遍昭	詞 入道尊覚親王筆	寛永9～12年（1632～35）	木製、1面	津八幡宮蔵
4-21	紀友則	詞 入道尊覚親王筆	寛永9～12年（1632～35）	木製、1面	津八幡宮蔵

No.	作品名	作者・筆者など	年代	形質・員数など	所蔵
4-22	小野小町	詞 入道空性親王筆	寛永9～12年 (1632～35)	木製、1面	津八幡宮蔵
4-23	藤原朝忠	詞 入道空性親王筆	寛永9～12年 (1632～35)	木製、1面	津八幡宮蔵
4-24	藤原高光	詞 入道空性親王筆	寛永9～12年 (1632～35)	木製、1面	津八幡宮蔵
4-25	壬生忠岑	詞 入道空性親王筆	寛永9～12年 (1632～35)	木製、1面	津八幡宮蔵
4-26	大中臣頼基	詞 入道空性親王筆	寛永9～12年 (1632～35)	木製、1面	津八幡宮蔵
4-27	源重之	詞 阿野実顕筆	寛永9～12年 (1632～35)	木製、1面	津八幡宮蔵
4-28	源信明	詞 阿野実顕筆	寛永9～12年 (1632～35)	木製、1面	津八幡宮蔵
4-29	源順	詞 阿野実顕筆	寛永9～12年 (1632～35)	木製、1面	津八幡宮蔵
4-30	清原元輔	詞 阿野実顕筆	寛永9～12年 (1632～35)	木製、1面	津八幡宮蔵
4-31	藤原元真	詞 阿野実顕筆	寛永9～12年 (1632～35)	木製、1面	津八幡宮蔵
4-32	藤原仲文	詞 飛鳥井雅宣筆	寛永9～12年 (1632～35)	木製、1面	津八幡宮蔵
4-33	壬生忠見	詞 飛鳥井雅宣筆	寛永9～12年 (1632～35)	木製、1面	津八幡宮蔵
4-34	中務	詞 飛鳥井雅宣筆	寛永9～12年 (1632～35)	木製、1面	津八幡宮蔵

◎は重要美術品。○は津市指定有形文化財。

## 第2展示室

### 所蔵品展

# 川喜田半泥子の作品と季節の館蔵品

令和4年9月10日～11月13日

### 出品目録

番号	作品名	作者など	窯・年代・素材など	備考
1	灰釉匂入茶碗 銘 磯の香	川喜田半泥子作	廣永窯・昭和20年代	新収蔵
2	灰釉匂入茶碗 銘 月の顔	川喜田半泥子作	廣永窯・昭和20年代	新収蔵
3	アケビ図（秋晴れや～）	川喜田半泥子筆・自賛	紙本墨画淡彩・昭和20年代	新収蔵
4	呼継茶碗 銘 いざよい	川喜田半泥子作	千歳山窯・昭和10年代	
5	井戸手茶碗 銘 おぼろ	川喜田半泥子作	廣永窯・昭和24年（1949）頃	
6	井戸手茶碗 銘 初紅葉	川喜田半泥子作	廣永窯・昭和22年（1947）	
7	焼締茶碗 銘 さび柿	川喜田半泥子作	千歳山窯・昭和10年代	
8	竹図（竹の影～）	川喜田半泥子筆・自賛	紙本墨画・昭和20年代	新収蔵
9	高麗手茶碗 銘 雅茶子	川喜田半泥子作	廣永窯・昭和20年代	
10	粉引茶碗 銘 雪の曙	川喜田半泥子作	千歳山窯・昭和10年代	
11	志野茶碗 銘 おらが秋	川喜田半泥子作	廣永窯・昭和20年代	
12	黒筒茶碗 銘 すず虫	川喜田半泥子作	昭和10～20年代	寄託作品
13	藁塚図（稲こきの～）	川喜田半泥子筆・自賛	紙本墨画淡彩・昭和20年代	新収蔵
14	灰釉茶碗 銘 どん栗	川喜田半泥子作	廣永窯・昭和20年代	寄託作品
15	志野茶碗 銘 かりがね	川喜田半泥子作	廣永窯・昭和20年代	
16	黒織部茶碗 銘 富貴	川喜田半泥子作	千歳山窯・昭和15年（1940）頃	寄託作品
17	呼継茶碗 銘 ねこなんちゅ	川喜田半泥子作	千歳山窯・昭和10年代	
18	柿図（柿くふて～）	川喜田半泥子筆・自賛	紙本墨画淡彩・昭和20年代	新収蔵
19	灰釉茶碗 銘 これはしたり	川喜田半泥子作	廣永窯・昭和20年代	寄託作品
20	黒茶碗 銘 三保の夜	川喜田半泥子作	千歳山窯・昭和10年代	
21	伊賀水指 銘 慾袋	川喜田半泥子作	千歳山窯・昭和15年（1940）	

### 茶席「山里」内

番号	作品名	作者など	窯・年代・素材など	備考
22	茶碗図（秋風の～）	川喜田半泥子筆・自賛	紙本墨画・昭和30年代	
23	志野彼岸花絵水指	川喜田半泥子作	廣永窯・昭和20年代	

※展示作品、展示期間が変更になる場合があります。